

<30-02>

課題名	宇治茶の持続的発展のための生産体制の強化 ～てん茶生産技術と相楽東部の茶産地支援～	ものづくり・ 販路づくり	山城北農業改良普及センター 山城南農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） 茶業後継者を養成する仕組みづくり		(2) 普及指導対象 茶業後継者を養成したい茶農家及び共同工場	
(3) 活動内容と成果			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者個々の現況と将来の茶業経営の意向把握のため、南山城村茶業振興対策協議会が行うアンケート調査の実施を支援した。その結果、これまでは雇用や人材育成の必要性を感じながらも農外参入者の研修対応には消極的であった多くの茶農家が、自分たちの現状と南山城村の茶業後継者養成塾（以下、茶業塾）の構想を理解し、茶業指導員登録者が現れた。 ・ 茶業塾の運営方法を検討するため、茶業塾実行委員会の立ち上げ及び茶業指導員の登録について南山城村産業観光課と調整を進めた。その結果、南山城村で茶業を営む強い心構えを持った人を新たな担い手として養成・定着させていく機運が高まりつつある。 ・ 新規就農希望者に茶栽培管理や製茶作業を知ってもらうための紹介動画を作成した。 ・ 宇治茶実践型学舎※の取り組みを通じた就農希望者のインターンシップ受け入れのため、地元との調整を行った。インターンシップを受け入れた農家は、茶業指導員としての予行演習になり、茶業塾の茶業指導員に対する理解と自信につながった。 <p style="margin-left: 20px;">※ 令和元年度開講した、新規就農者を支援する京都府の制度。現地茶農家でインターンシップ研修を経験後、茶業研究所や現地で座学や実践的な技術研修を受ける。</p>			
(4) コメント		(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<p>① 新規就農者の中には、市場出荷や茶問屋との相対取引を良しとしない人もいることが想定される。技術面で優れた指導者の他に、異なった流通販売をしている事業者なども指導者としたらどうか。</p>		<p>① 新規参入者の栽培技術が未熟で、農産物の品質、収量を確保できずに販路開拓を試みて失敗する事例が、茶以外で数多く見られます。まずは経営基盤を確保し、茶生産技術を習得し茶生産を安定させることが第一と考え、茶生産者を茶業指導者として募集することにしました。</p> <p>何年か後、市場への荒茶出荷だけではなく、さらなる収入確保を求める局面となれば、流通販売の指導者について考慮していきます。</p>	

<p>② アンケートを通じて危機感という問題意識をもたれたことは、大きな成果。今後は、地元農業者が主体的に新規就農者への関与を深めていられるのかが課題と思うため、働きかけの工夫をお願いします。</p> <p>「南山城村で茶業を営む強い心構えを持った人を新たな担い手として養成・定着させていくことの気運がたかまりつつある」とのことだが、具体的に何がこう判断する理由なのか、補足説明を。</p>	<p>② 普及センターは、新規参入者を最初に受け入れて直接指導する茶業指導者へのサポートを行い、実績を積みながら、具体的な事例をもとに、茶業振興対策協議会で共有、戦略を練るなど、南山城村や地域の主体性をさらに高めていきたいと考えます。</p> <p>気運については、茶業振興対策協議会を通じた取り組みの中で、役員や関係機関で危機意識を共有できたことはもちろんのこと、そういった公の席以外でも生産者と個別に対話する中で、担い手の問題を話題にした際に得た感触です。各自の経営の担い手（労働力・後継者）確保といった視点から、地域あげての産地の担い手確保についての問題意識が高まりつつあります。</p>
<p>③ 茶業後継者の養成数は0パーセントとの結果を受けて、今後、強化して展開する内容等の説明をお願いします。</p>	<p>③ 茶業への新規参入については、過去の山城地域の実績や現在の社会情勢を鑑みても、就農希望者を多くは見込めません。茶業塾整備から始めた本計画ではこの3年間で1名の目標としております。</p> <p>茶業塾の整備により、南山城村での地域ぐるみの受入体制であることをアピールしつつ、農業会議、ジョブカフェを通じた募集や、ホームページなどへの掲載、就農相談会出展などの活動を展開して希望者を集め、養成者数を多くしたいと考えております。</p> <p>まずは、宇治茶実践型学舎生1名が南山城村への就農を希望しておりますので、南山城村茶業塾を通しての受入作業を進めます。</p>
<p>④ 茶業後継者（新規参入者）を募集するための経営指標や複合経営のパターンのいくつかが必要ではないか（個人経営や法人経営または法人への雇用、多品目との複合経営や他産業との組み合わせなど）。また、アンケート未提出者の意向をできる形で意見集約をお願いします。</p>	<p>④ 新規参入者が就農後すぐに、しいたけを含む複合経営に取り組むのは難しいため、茶業に携わる1年間の仕事量を考慮し、現実的な経営指標を作成しております。茶業経営以外では、茶業オペレーターだけでなく、しいたけ農家でのアルバイトなど、村内で収入を得ることを考えています。</p>

	<p>基盤のない新規参入者にとって、特に茶をめざすにあたっては、茶園確保や初期投資抑制のための何らかの支援策の創設・導入も必要と思われます。</p> <p>アンケート未提出者には、巡回時に聞き取りをするなど、未提出者の意向把握に努めます。</p>
<p>⑤ 南山城村で生活する上でのサポート体制や、農業の担い手の高齢化による労働不足に対し、もう一段上の対策が必要ではないか。</p>	<p>⑤ 年間所得をいかに確保して生活が続くかという視点に立ち、茶生産に携わりながらも、農業生産だけにこだわらない収入を確保させて、定着を考えます。居住地については、南山城村担当部署と連携して、茶業塾生が中長期に滞在できる宿泊場所や農泊等の仕組みづくりを検討します。</p> <p>南山城村全体の労働力不足については、新規参入者の確保だけではまかないきれませんので、傾斜地対応型乗用管理機など省力化・軽労化につながるスマート農業技術の普及なども検討します。</p>
<p>⑥ 道の駅などを活用したPRや試験販売など、新規就農者の意欲を喚起するような経営支援対策を期待する。</p>	<p>⑥ 基盤が小さく運営資金や投資もままならない新規参入者には、茶の収入を確保するには付加価値（有利販売）も視野に入れて考える必要があると考えております。南山城村において有利な販売を模索する動きがあり、このような動きとも連携し、新規就農者の経営安定につなげます。</p>